



南葵音楽文庫ミニレクチャー

## ラヴェルと日本とフォックストロット

～スナール室内楽シリーズから (4)

近藤秀樹

2018年7月14日(土) 11:00

はじめに: スナール室内楽シリーズ

南葵音楽文庫  
和歌山県立図書館内  
和歌山市西高松 1-7-38  
tel. 073-436-9500

- ・南葵音楽文庫所蔵の”スナール室内楽シリーズ”から興味深い作品を紹介
- ・今回のテーマ: 日本で世界初演されたラヴェルの作品?



### 1. ティータイムのフォックストロット (5 o'clock fox trot)

ラヴェルの歌劇《子どもと魔法》(1925年3月21日初演)の一部。ウエッジウッド製のポットと中国茶碗が歌って踊る場面。これをピアニストのジル=マルシェックスがピアノ独奏用に編曲。来日リサイタルの一齣として自ら世界初演。楽譜はデュラン社(Durand)から出版されたが、スナール室内楽シリーズの「ピアノ曲編」(1927年)にも納められた。

※ 1927年にスナール社は「室内楽シリーズ」の方針を転換。自社だけでなく他社の作品もシリーズに収めることに。▶『南葵音楽文庫紀要』第1号を参照。

<https://www.glyndebourne.com/tickets-and-whats-on/events/2015/lheure-espagnole-lenfant-et-les-sortileges/>



※ ラヴェルの歌劇《子どもと魔法》については、  
「南葵音楽文庫ミニレクチャー 子どもと魔法～こどもたちのための音楽 (2)」の資料を参照。

ジル=マルシェックスの編曲は「幻想曲」Fantaisie という副題が付けられており、同じ歌劇中の別の曲と組み合わせるなど、原曲をかなり自由に扱っている。

The image shows a piano score for the first system of the piece. It consists of two staves: a treble clef staff and a bass clef staff. The treble staff features a melodic line with several triplet markings (indicated by a '3' over a group of notes) and a dynamic marking of 'mf' (mezzo-forte). The bass staff provides a harmonic accompaniment with chords and some melodic fragments. There are asterisks and the letters 'ra' under the bass staff, likely indicating specific notes or chords.

▲ ジル=マルシェックス編 ラヴェル《ティータイムのフォックストロット》55-60小節

## 2. フォックストロットと早川雪洲

- ・フォックストロット (Fox-trot)  
 社交ダンスの一つ。1920年代に流行。  
 19世紀末、アメリカでラグタイムが誕生→これに合わせて生まれたダンスの一つ。  
 名称: 創始者ハリー・フォックス (Harry Fox) に由来。

The image shows a musical score for the second system, featuring a vocal line and a piano accompaniment. The vocal line is written in a treble clef and includes lyrics in both Japanese and French. The piano accompaniment is written in a bass clef. A box containing the number '32' is positioned above the vocal line. The lyrics are:   
 -râ, Çà-oh-râ, Çà-oh-râ... Cas.ka-ra, ha-ra-ki-ri, Ses-sue Ha-ya-ka-  
 -wal Hâl Hâl Hâl Çà-oh-râ, Çà-oh-râ, Hâl

▲ ラヴェル《子どもと魔法》の〈ティータイムのフォックストロット〉で、中国茶碗が歌う歌。  
 [譜例の2小節～7小節が、上のジル=マルシェックス編の譜例の箇所に対応。]



- 「ハラキリ、セッシュウ、ハヤカワ」ラヴェルの歌劇では中国茶碗がデタラメな中国語(?)で歌う。
- 映画『ラ・バタイユ』(La Bataille, 1923年) フランス映画。日露戦争が物語の舞台。名優・早川雪洲(1886-1973)が主人公の海軍将校ヨリサカ侯爵を演じる。

◀ 映画『ラ・バタイユ』の早川雪洲

[https://www.lot-art.com/auction-lots/Sessue-Hayakawa-Dans-le-film-La-bataille-dEdouard-Emile-Violet-1923/11-sessue\\_hayakawa-18.12-millon](https://www.lot-art.com/auction-lots/Sessue-Hayakawa-Dans-le-film-La-bataille-dEdouard-Emile-Violet-1923/11-sessue_hayakawa-18.12-millon)

⇒ いかにも 1920年代らしい歌詞と音楽。

### 3. ジル=マルシェックス(Henri Gil-Marchex 1894-1970)の来日リサイタル



▲ ジル=マルシェックス (マチス画)

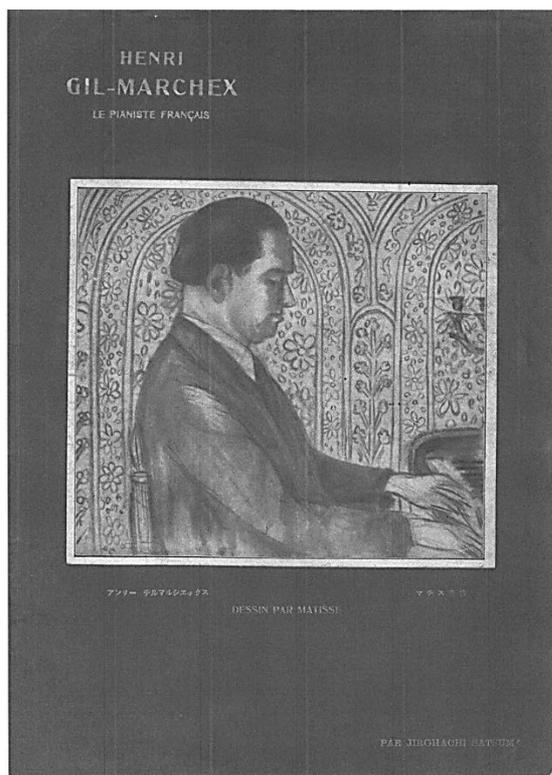


▲ 薩摩治郎八 (藤田嗣治画)

1925年、フランスのピアニスト、ジル=マルシェックスが初来日。

薩摩治郎八(1901-76)の肝煎りで、10月~11月にかけて6回の連続リサイタルを開催。

- 3つのテーマ(主観的音楽、追想的音楽、舞踊音楽)×各テーマについて2回のリサイタル
- バロック時代の作品から、古典派、ロマン派を経て、同時代(1920年代)の作品までを網羅
- 《ティータイムのフォックストロット》は「舞踊音楽」第2回の最後に演奏。  
[プログラムに掲載された邦題は《五時 フォックス トロット》]
- 当時の日本の楽壇に大きな影響を与える。



6回の連続リサイタルのプログラム。6回分すべての曲目の解説を含む。

表紙の絵は、アンリ・マチスが描いたジル=マルシェックス。

序文は薩摩治郎八。

曲目解説はピアニスト自身による。

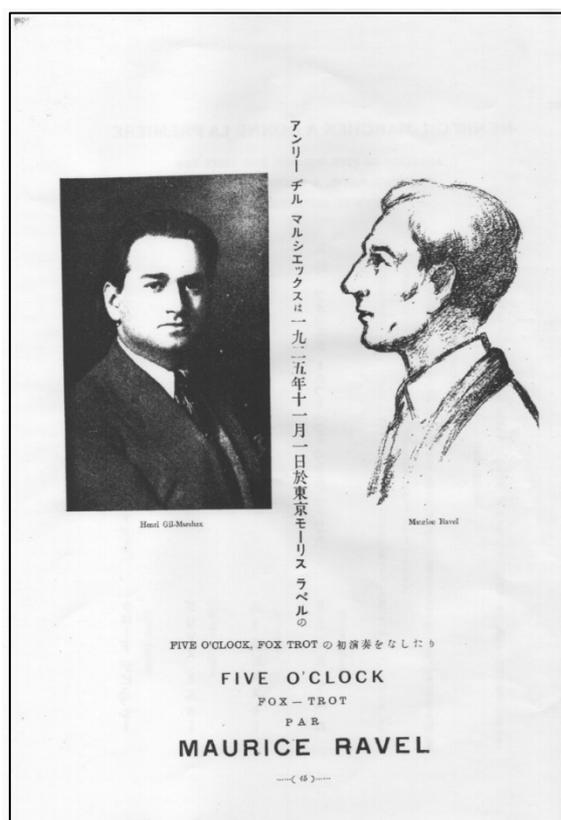
巻末に、ジル=マルシェックスがラヴェルのピアノ曲の演奏解釈を論じた論文(フランスの音楽雑誌『ルヴュ・ミュージカル』誌1925年第6号に掲載、小松耕輔訳)を付録として納める。

図版多数。全51ページ。

上記プログラムのp.45。ジル=マルシェックス編のラヴェル《ティータイムのフォックストロット》の世界初演が、6回の連続リサイタルのなかで重要な位置を占めていたことがうかがわれる。p.44では、第6回リサイタル(「舞踊音楽」第2回)の終盤の、

- ・ドビュッシー〈ゴリウォーグのケイクワーク〉
- ・ミヨー《ブラジルの郷愁》
- ・ストラヴィンスキー《ピアノ・ラグ・ミュージック》
- ・ラヴェル《五時 フォックストロット》

この四曲がセットで解説されており、タンゴやラグタイムなど、20世紀の新しい舞曲に基づく作品のひとつとしてラヴェルの曲が取り上げられていることがわかる。



\* 連続リサイタルの各回の曲目については、白石朝子氏の博士論文 [●参考文献] を参照。

## ジル=マルシェックスと「スナール室内楽シリーズ」

ジル=マルシェックスは作曲・編曲活動も行っており、その幾つかは「スナール室内楽シリーズ」の一環として刊行されている。

- ラヴェル/ジル=マルシェックス 《ティータイムのフォックストロット》(1927年出版)
- リュリ/ジル=マルシェックス 《パサカイユ》(抒情悲劇《ペルセウス》より)(1922年出版)
- ジル=マルシェックス 《2つの歌曲》(1927年出版)
  1. 果てもなく広がる平原の倦怠のなかに…(ヴェルレーヌ詩)
  2. 隣の女の家のカーテンが…(ミュッセ詩)

\*いずれも南葵音楽文庫所蔵。

ジル=マルシェックスは、リュリ《パサカイユ》を、連続リサイタルの第5回(「舞踊音楽」第1回)の最初に弾いている。

## 4. 梶井基次郎(1901-32)の「器乐的幻覚」



### 「器乐的幻覚」

ジル=マルシェックスの連続リサイタルの体験を題材のひとつとした不思議な短編。

1928年5月1日発行の同人詩誌『近代風景』(北原白秋・萩原朔太郎主宰)に掲載。

最後の場面に、「音楽好きで名高い侯爵」が登場。モデルは徳川頼貞……?

◀ 梶井基次郎 [写真は Wikipedia より]

## ○ 参考文献

- 白石朝子「アンリ・ジル=マルシェックスによる日仏文化交流の試み——4度の来日(1925-1937)における音楽活動と日本音楽研究をもとに——」、愛知県立芸術大学 音楽研究科 博士後期課程学位論文(平成25年度)
- Henri Gil-Marchex Columbia 78rpm & Broadcast Recordings, Sakuraphon, SKRP78002,2015.